

編集後記

本号は、論文二編、研究ノート一編、報告一編、資料紹介四編を掲載しています。

坂本・宮田論文は、青葉区の大場富士塚遺跡の朝光寺原式土器を中心とした弥生土器についての紹介およびその特色についての考察。武井論文は、一九二四年春の加曽利貝塚発掘を視点とした山内清男の先史考古学方法論について検討しています。また岸上研究ノートは、磯子区氷取沢の金子里吉日記から、関東大震災で罹災した主屋の復興経過と人々の関わりについて明らかにしました。

吉井・篠原報告は、令和三年度～五年度に、東海大学と当館とで協働で実施した博物館実習プログラムの報告です。

資料紹介については、阿諏訪は従来写本しか存在しないと考えられていた「小机庄之内四人衆拘分」宛て豊臣秀吉禁制の原資料の紹介、吉永は東京湾西岸に所在する弥生時代～古墳時代前期の貝塚から出土した貝類遺体の調査報告、古屋・上山は青葉区の稲荷前16号墳出土土器についての実測と調査報告、小林はこれまで4号にわたって掲載してきた都筑区川和町中山恒三郎家の「営業簿」の翻刻と砂糖販売についての検討です。

本号の内容は、当館と当館に集う方々の多彩な活動の成果です。多くの方に読んでいただき、広く活用いただければ幸いです。

（小林紀）

横浜市歴史博物館 紀要 第二十八号

二〇二四年三月 発行

編集 横浜市歴史博物館

横浜市都筑区中川中央一―一八―一

電話 〇四五―九一二―七七七七(代)

発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団

制作 株式会社佐藤印刷所